

芸術学 専攻

設置クラス	土曜専科	高3生・高卒生	土曜	13:30~18:00
	高2土曜専科	高2生 (高1生も受講できます)	土曜	13:30~18:00
	日曜専科	高3生・高卒生	日曜	9:30~18:00
	高2日曜専科	高2生 (高1生も受講できます)	日曜	9:30~18:00

言葉と行動で芸術を探求する

芸術学専攻は、主に東京藝術大学・愛知県立芸術大学・多摩美術大学・武蔵野美術大学・筑波大学（芸術専門学群）[美術史・芸術支援]、および同志社大学（美学芸術学科）[推薦選抜]、群馬県立女子大学（美学美術史学科）、京都市立芸術大学（総合芸術学科）を志望する人のためのクラスです。授業では、芸術学特有の論述を中心とした入学試験に備えるため、演習形式の実践的なトレーニングを行っていきます。年間カリキュラムでは、「英文和訳」「歴史論述」「小論文」の科目を中心に演習・添削・講評といった流れで入試対策を行います。



指導スタッフ

学習の進度や学年にとらわれることなく、「個別指導」・「一斉授業」・「個別教材」で、生徒たちの学力や性格をしっかりつかんで指導します。一人ひとりの学力に応じた教材を提供し、適切なアドバイスをすることで、「自分から進んで学習する」姿勢や態度を育てます。

- レギュラー講師
榎並 美月 東京藝大芸術学在籍
知久 眞也 東京藝大芸術学卒
- チューター
阿部 竜也 愛知芸大彫刻在籍
中根 光駿 愛知芸大油画在籍



(2024年12月現在・50音順)

年間カリキュラム	高1生・高2生	高3生・高卒生
春期講習		
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ●入塾ガイダンス ●第1回全統共通テスト模試 	<p>[英語] (読解) 比較的短めの英文部訳に取り組みながら、英文を読むための基礎となる正確な構文力を養います。話題は美術に関連したものが中心で、興味を持って取り組めると思います。</p> <p>(文法) ①動詞と文型 ②準動詞（不定詞・動名詞・分詞） ③節（接続詞・疑問詞・関係詞） という英文を読むために欠かせないテーマを短文の和訳演習を通して学習します。</p>
夏期講習		
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者会（三者面談） ●大学入学共通テスト出願 ●第3回全統共通テスト模試 ●全統プレ共通テスト 	<p>[歴史] 東京藝大の歴史対策は、早期の準備こそが合格への決め手となります。「基礎固め」と「50~300字程度の論述演習」をおこないます。 ※各自の学習状況にあわせて課題に取り組みます。</p>
冬期講習		
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ●大学入学共通テスト ●修了会 	<p>[小論文] 課題演習とあわせて、美術を話題とした文章を読み、調べもの学習をおこないます。美術に対する関心領域をひろげることを目標とします。</p>
直前講習 (高1生、高2生も参加できます)		

※金沢美大の対策は、受講する前に、お問い合わせください。
※芸術学での京都市立芸術大学の対策は、「小論文」になります。
※機会を設けて、美術を話題とした古文、漢文の読解演習をおこないます。
※高1生、高2生は、入塾時の学習状況と照らし合わせながら学習を進めていきます。

[学科試験対策]

●英語

美術を話題とした英文を正確に和訳していきます。英文の構造や訳し方のプロセスがわかる教材で学習し、ここで基本的な文法・構文のルールを学びます。洋書を読むスキルを身につける力を養います。

●歴史

300~600字の論述演習に取り組みながら、東京藝大特有の形式と内容に関する特徴をつかみ、それに対して、高得点をとるのにどのような勉強法が有効なのかを実践的に確認してもらいます。

1学期：原始から近世を中心に

2学期：近世から現代を中心に

●小論文対策

中身のある小論文を書くためにはどうすればよいのか？ 添削・指導を通じて、書くための土台を養います。

〈図版問題〉

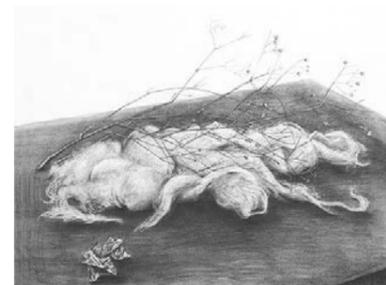
作品分析・比較を通じて、絵画・彫刻作品を記述する力を身につけます。

〈テーマ型〉

美術（史）、美学、展覧会、美術教育などに関する課題に取り組みます。

[実技試験対策]

二次試験で行われるデッサン科目の対策も行います。愛知県立芸術大学（芸術学）合格者作品



[美術館見学]

実際に美術館へと足を運び作品に触れることで芸術に関する知識・関心を深めます。

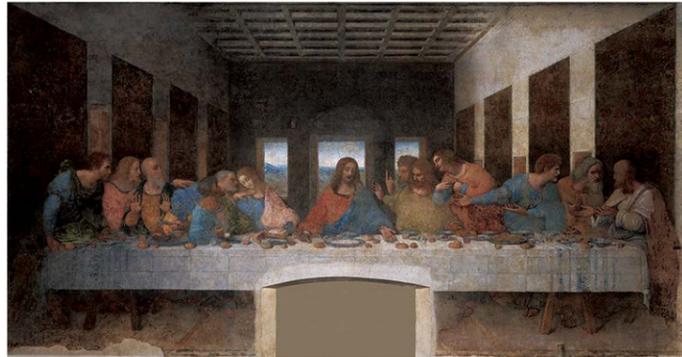


[授業風景]

図書室の画集や文献を利用した調べ学習の時間を設け、基礎的な美術史の知識を身につけます。



〈課題〉 図版Aと図版Bの作品をよく比較観察し、その造形的特質について論じなさい。



図版A
レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晩餐》1495~97年
壁に油彩テンペラ 420×910cm
ミラノ サンタ・マリア・デレ・グラツィエ修道院



図版B
ティントレット《最後の晩餐》1592~94年
カンバスに油彩 365×568cm
ヴェネツィア サン・ジョルジョ・マジョーレ聖堂壁画

最後の晩餐

12人の弟子が、イエス・キリストと最後の晩餐をともにしている場面を主題とした2点の絵画であるが、一見ただけでは主題が同じであるとは分からない。2点を比較すると見えてくる造形的特質の違いが起因していると思われるが、以下に詳細を述べていきたい。

ダ・ヴィンチとティントレットの《最後の晩餐》を比較したときの最大の相違点は空間の扱い方だろう。図版Aは机を横一直線に配し、パースを単純化することで人物に重点を置いていることが分かる。こうした配置をすることで人物一人ひとりの表情や手つきを細かく描くことができ、鑑賞する方は人物たちの心理状況や関係性を読むことができるのだ。一方、図版Bは人物よりも空間に重点を置き、パースをやや強くつけることで臨場感を出している。また、12人の弟子やキリスト以外の人物も登場させており、場の設定をはっきりさせることで鑑者も全体に目を向けることができるのである。さらに広々とした空間を感じさせるため、キリストら以外の人々がキリストのいるテーブルを半円形になって囲み、その中は人を配置しない工夫も施されている。

このように、2点は重点を置く場所にも違いがある訳だが、これは絵画全体の装飾性をみても感じられる。Aは人物を中心としているため素朴な描きながされてあり、色も人物以外はほぼ似たような暗めの色を使用している。壁や天井も誇張しないよう四角形でパターン化されている。しかしBはキリストの神々しさや場の怪しさなどの独特な雰囲気を大切に描かれたため、壁や床はこだわりを持って柄などが描かれ、さらに天井には現実世界には存在しない天使の形のようなものまで描かれている。また、光を強く意識した色使いで、イエス・キリストの後光が光源となり、光が届かない奥側や手前の人物の背、机の真下の床には暗い色が用いられている。赤や青といった色味が人物に対して多く使用されている点は、Aとの類似点として挙げられるだろう。しかしBはコントラストが非常に強いため同じ赤や青の色味でも鑑者にはまったく違う印象を与えられる。

2点の全体を比較してみると、Aはモチーフを面的に見て描き、画面をできるだけシンプルにし狙いを明確にさせている。Bは空気感を大切に、画面にたくさんものを描き込むことで独特な雰囲気を出している。同じ主題をもってしても描法が変われば見る者に与える印象も変化するのである。

特に右手前の人物
こちらに背を向けて描くことで空間性を強調

画面中央奥に収斂するように描かれている。
そしてその消失点にちょうどキリストの頭部が
来るようにしている
↓
それに対してBはどうだろう？空間の作り方を
より丁寧に説明すると好印象

☆個々の造形的特質がどんな効果をもたらしているかをきちんと記述できているし、細部の言い回しも気がきいていてとても良いです！
この調子でどんどんいろいろな作品と向き合ってください。

芸術学 Q&A

Q.芸術学とは？

A. 芸術学とは、芸術を「ことば」で語る学問です。良い作品があれば、「なぜ」「どのように」良いのかを考え、他者へと「伝える」ことをめざします。また、美術、美術史、美学などを研究します。美術館学芸員、研究者(美術史家、美学者)、批評家、美術教師、雑誌編集者など、美術にかかわるさまざまな職につくためのスキルを獲得します。

Q.大学で何が学べますか？

A. 主に美術に関する授業(美術史、美学など)が行われます。特に芸術大学の芸術学科では、実技科目が開講されており、油画、日本画、彫刻、写真、キュレーションなどについても網羅的に学ぶことができます。

Q.どんな人が芸術学に向いていますか？

A. こんな人が向いています！

- ・美術にかかわる仕事がしたい(学芸員、批評家、画廊など)
- ・美術館・博物館が好き、企画展を見るのが好き
- ・文章にかかわる仕事がしたい(ライター、編集者、作家など)
- ・無名作家を世に知らせたい
- ・アートイベントを開催してみたい
- ・学者になりたい
- ・アーティストになることに興味がある
- ・裏方が好き

Q.実技一辺倒で、勉強を真面目にやってきませんでした。大丈夫でしょうか？

A. そのような状態で芸術学科へ来て、1年で合格した例は過去にあります。個人の進路希望や学習進度に合わせた課題の取り組み、入試対策を行っているので、安心して学習できると思います。むしろ、実技の経験は他の受験生と差をつける強みとなるはずなので、小論文などで生かしてほしいです！

Q.芸術学科を受験するにあたってどのようなことを意識すると良いですか？

A. もちろん受験に向けた勉強も大切ですが、文章力や読解力、美術に対する関心の高さも重要です。普段から読書をするのを心がけたり、美術館の展覧会や寺社を訪れたりすると良いでしょう。自分が好きなものを見つけ、それについて語る力や知識を身につけましょう！

合格者からのメッセージ



根村 明香里さん
芸術学日曜専科
加茂高校出身

合格
愛知県立芸術大学 芸術学専攻
関西学院大学 美学芸術学専修

二次試験に向けて何を勉強すればいいのかが分からなかったのですが、河合塾で先生方にアドバイスをいただいたおかげで小論文の記述力も上がり、苦しい英語も克服することができました。河合塾で勉強したことが自信になり、問題の形式が変わっても落ち着いて解くことができました。2024年度入試は倍率が高く来年以降もその可能性があると思いますが、後輩の方も最後まであきらめず頑張ってください。

大学生活紹介

毎日新しい発見があります



萩野 和香さん

東京藝術大学 芸術学科3年
2021年度 芸術学日曜専科
豊田西高校出身

東京藝大では、実技基礎、美術史、美学などが学べます。このほかの授業を自分の興味に合わせて受けることもでき、本当に多種多様な体験ができます。毎日の授業では、知識だけでなく今まで考えたこともなかった新しい作品の見方も得ることができます。授業が終わった後、大学の近くにある美術館・博物館を訪れて、実際に作品を鑑賞して確かめることができるのは、東京藝大で学ぶ醍醐味だと思います。